

Europe Indicators

発表日: 2020年3月10日(火)

欧州経済指標コメント: 10-12月期ユーロ圏GDP

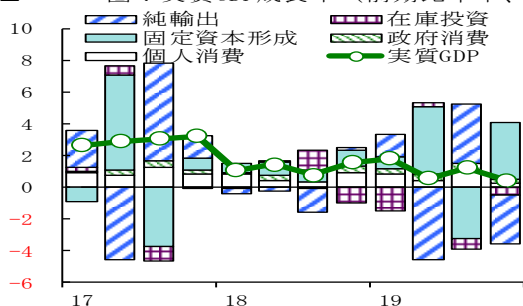
～3月の景気指標悪化に備える～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (Tel: 03-5221-4527)

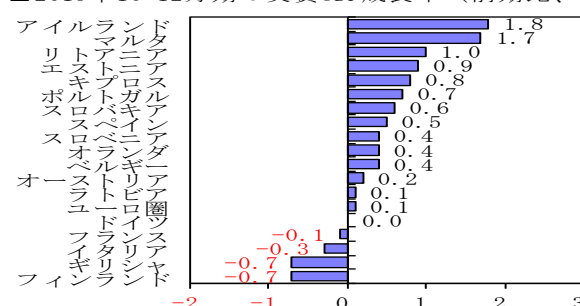
- ユーロ圏の昨年10-12月期実質GDP成長率の改定値は前期比+0.1%と二次速報値から不変。同年率値は+0.2%→+0.5%に僅かに上方修正された。国別には、既報のイタリア(同▲0.3%)、フランス(同▲0.1%)、フィンランド(同▲0.7%)に加え、ギリシャ(同▲0.7%)がマイナス成長に転落。ドイツのゼロ成長、スペインの小幅成長加速(同+0.5%)は従前の通り。アイルランド、マルタ、リトアニア、エストニアなどの小国が高い成長を記録した。
- 新たに発表された需要項目別の内訳は、個人消費が大幅に減速(7-9月期: 同+0.5%→10-12月期: 同+0.1%)、政府消費も伸びが鈍化(同+0.6%→同+0.3%)、在庫投資が前期に引き続き成長を下押し(寄与度: 同▲0.2%ポイント→同▲0.1%ポイント)した一方、前期に大きく落ち込んだ固定資本形成がプラス転換した(同▲3.8→同+4.2%)。ここ数四半期ボラタイルな動きが続いている純輸出の寄与度は、前期の大幅プラスから一転、大幅マイナスとなった(同+0.9%ポイント→同▲0.8%ポイント)。輸出の低調な伸びが続くなか(同+0.6%→同+0.4%)、輸入が前期の落ち込みから反動増となった(同▲1.3%→同+2.2%)ことが響いた。
- 年明け以降の景気は、1月のドイツやフランスの鉱工業生産が大幅に反発、1・2月のPMIが一段と改善するなど、全般に景気回復を示唆。だが、イタリアに飛び火した新型コロナウイルスの感染拡大が欧州各地に広がっており、3月以降の景気に急ブレーキが掛かることは必至。イタリアのみならず、ユーロ圏景気にも景気後退のリスクが高まってきた。

■ユーロ圏: 実質GDP成長率(前期比年率、%)



出所: Eurostat

■2019年10-12月期の実質GDP成長率(前期比、%)



出所: Eurostat

■ユーロ圏GDP(前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>)

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
18/1-3月期	2.3	1.1	(1.4)	1.6	0.4	2.7	(▲0.1)	▲0.4	▲1.7	▲1.0
18/4-6月期	2.9	1.4	(1.7)	0.7	1.8	4.0	(0.1)	▲0.3	3.6	4.7
18/7-9月期	2.1	0.8	(2.3)	0.6	▲0.2	3.9	(1.2)	▲1.5	0.9	4.5
18/10-12月期	3.5	1.6	(1.4)	1.7	2.1	4.8	(▲1.0)	0.2	4.2	4.2
19/1-3月期	3.7	1.8	(0.4)	1.6	1.7	3.7	(▲1.5)	1.4	3.8	1.0
19/4-6月期	2.5	0.6	(5.2)	0.8	1.8	21.7	(0.3)	▲4.6	0.2	11.2
19/7-9月期	2.6	1.2	(▲2.5)	2.0	2.2	▲14.2	(▲0.6)	3.7	2.5	▲5.3
19/10-12月期	2.6	0.5	(3.6)	0.5	1.4	17.9	(▲0.5)	▲3.1	1.7	9.2

出所: Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

